

『標準微生物学 第14版』 正誤表

このたびは『標準微生物学 第14版』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

第1刷（2021年3月15日発行）、第2刷（2021年11月15日発行）、第3刷（2023年3月15日発行）におきまして、以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。また、あわせて情報のアップデートもお知らせいたします。

2023年3月29日作成，2023年6月29日更新

刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
1～3	7頁・右段・8～9行目	このウイルスが伝染性単核球症の原因であることは1968年、 Walter Henle (1910～1987) と…	このウイルスが伝染性単核球症の原因であることは1968年、 Werner Henle (1910～1987) と…	2023/4/17
1, 2	8頁・左段・9～12行目	1929 年 Alexander Fleming (1881～1955) (図 1-16) は、アオカビ <i>Penicillium</i> から細菌の増殖を抑制する物質が分泌されることを発見し、…	1928 年 Alexander Fleming (1881～1955) (図 1-16) は、アオカビ <i>Penicillium</i> から細菌の増殖を抑制する物質が分泌されることを発見し、…	2023/3/29
1～3	70頁・右段最終行～71頁・左段3行目	1988 年にジフテリア菌から菌体遊離性の病原因子（ジフテリア毒素）が細菌毒素として初めて発見されて以来、…	1888 年にジフテリア菌から菌体遊離性の病原因子（ジフテリア毒素）が細菌毒素として初めて発見されて以来、…	2023/4/17
1, 2	102～121頁・「第10章 細菌感染症と化学療法」	→欄外の【「第10章 細菌感染症と化学療法」（第1刷、第2刷；102～121頁）について】をご参照ください。	※第3刷で新規原稿に差し替えました。 ※新規原稿（102～122頁）は こちら [PDF：10.5 MB] です。	2023/3/29
3	117頁・表10-5・「備考」の欄	※「カナマイシン，エンビオマイシン」の備考欄に野線と記載が抜けていて、「 フルオロキノロン系 」となっている。	※正しくは、カナマイシンは「 アミノグリコシド系 」，エンビオマイシンは「 ポリペプチド系 」となります。	2023/6/29
3	119頁・左段・7～11行目	前者の代表例は、 β -ラクタマーゼ遺伝子やアミノグリコシド修飾酵素遺伝子の獲得などが挙げられ、後者には DNA ジャイレースや DNA トポイソメラーゼの変異によるキノロン系抗菌薬耐性、 腸球菌のバンコマイシン耐性 ，rRNA の変異…	前者の代表例は、 β -ラクタマーゼ遺伝子やアミノグリコシド修飾酵素遺伝子の獲得、 腸球菌のバンコマイシン耐性遺伝子の獲得 などが挙げられ、後者には DNA ジャイレースや DNA トポイソメラーゼの変異によるキノロン系抗菌薬耐性、rRNA の変異…	2023/6/29



刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
1, 2	134 頁・図 11-5	※「 <i>N</i> -アセチルムラミン酸」と「 <i>N</i> -アセチルグルコサミン」が逆になっている。	※正しくは茶色の分子が「 <i>N</i> -アセチルムラミン酸」、紫色の分子が「 <i>N</i> -アセチルグルコサミン」となります。 ※修正後の図を含む 134 頁は こちら [PDF : 960 KB] です。	2023/3/29
1	155 頁・図 12-7	※a の「重鎖」「軽鎖」の文字が逆になっている。また、b の右側の図の一部がずれている。	※修正後の図を含む 155 頁は こちら [PDF : 930 KB] です。	2023/3/29
1～3	164 頁・右段・2 行目	…非運動性のグラム陰性桿菌である。	…非運動性のグラム陽性桿菌である。	2023/3/29
1	394 頁・右段・下から 6～4 行目	これまでに根絶された感染症は、痘瘡と、麻疹に近縁なウシの感染症である牛痘（2011 年）のみである。	これまでに根絶された感染症は、痘瘡と、麻疹に近縁なウシの感染症である牛痘（2011 年）のみである。	2023/3/29
1, 2	461 頁・「D COVID-19」内の「6 予防・治療」		※情報をアップデートしました。 ※修正後の本文を含む 461 頁は こちら [PDF : 980 KB] です。	2023/3/29
1	501 頁・右段・「C 遺伝子とウイルスタンパク質」内 3 行目	ゲノム DNA を…	ゲノム RNA を…	2023/3/29
1～3	520 頁・右段・10～13 行目	血友病患者の 40%、約 2,000 人が HIV に感染するという悲劇が起きた。非加熱製剤を認可・販売した厚生労働省と製薬企業が敗訴したこと（薬害エイズ訴訟）が契機となり…	血友病患者の約 3 割、約 1,400 人が HIV に感染するという悲劇が起きた。非加熱製剤を認可・販売した厚生省(当時)と製薬企業に対する訴訟(薬害エイズ訴訟)の和解が契機となり…	2023/4/17
1～3	575 頁・左段・「1 肝吸虫症」内 14～15 行目	第 1 選択薬はアルベンダゾールである。	第 1 選択薬はプラジカンテルである。	2023/3/29
1, 2	593 頁・表 43-4・定点把握疾患の疾患の 1 行目	感染症胃腸炎	感染性胃腸炎	2023/3/29



刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
1, 2	595 頁・「4 国際保健規則」の前		<p>※第 2 刷で「4 新型インフルエンザ等対策特別措置法」の解説を追加、第 3 刷で検疫法の解説を加筆しました。</p> <p>※修正後の本文を含む 595 頁は こちら [PDF : 840 KB] です。</p>	2023/3/29

■「第 10 章 細菌感染症と化学療法」(第 1 刷、第 2 刷 ; 102~121 頁) について

弊社の進行の不備により、前版(第 13 版、2018 年 3 月 15 日 発行)の原稿内容を、第 13 版執筆者(荒川 宜親先生)のご許可を得ずに掲載してしまいました。関係の著者ならびに読者の皆様には多大なるご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

第 3 刷では新規原稿に差し替えさせていただきます。

※第 3 刷の新規原稿(102~122 頁)は [こちら \[PDF : 10.5 MB\]](#) です。

